



TITLE:

資料紹介:スペイン語で書かれたメキシコの百科辞典

AUTHOR(S):

CITATION:

資料紹介:スペイン語で書かれたメキシコの百科辞典. 静脩 1968, 4(6): 4-4

ISSUE DATE:

1968-03

URL:

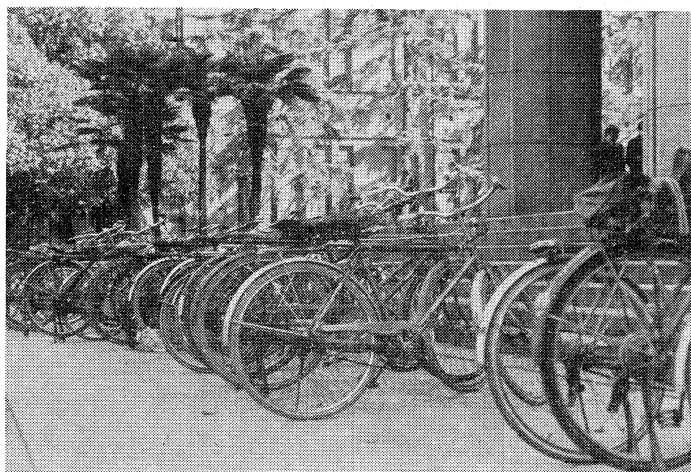
<http://hdl.handle.net/2433/36439>

RIGHT:

○ **Diccionario Enciclopedico U.T.E.H.A. Union Tipografica Editorial Hispano Americana, Mexico. 1950-1952. 10v. il.** (スペイン語で書かれたメキシコの百科辞典)

アルファベット順に約 500,000 項目が収録されている。範囲は地理、伝記、科学等の全般にわたっているが、特にメキシコとラテンアメリカに重点がおかれている。

Apendice (補遺) 2 冊が1964年に出版され巻末には物故者の命日表が附随している。



図書館とマイ・カー

図書館を
利用して

私自身図書館をそう多く利用したわけでもなく、またその少ない図書館の利用といっても、閲覧室に幾度か行ったのみである。それでも長い四年の間には、図書館についての色んな思い出も残っているし、そこには四季折々の姿があった。

教養時代にこの閲覧室に訪ずれて最初に感じたのは、まず部屋が大きかったことである。教養部にある二、三の図書室とはまるでちがっていた。そのころのフラフラと遊び廻っていた私の気分とはウラハラに、みんな真剣な顔をして、本を読んだり、書きものをしている。京大にもこういう場所があったのだと、気がついた(甘かった!)。それでそういう気分にも私も染まりたくなかったのか、時折は足を運ぶことになった。

(春の図書館) 真剣な表情で勉強している人もいるが、たいていは眠そうである。春には試験もないので、みんなノンビリムードである。時々ふっと顔を上げては、腕時計をのぞきこみ、また安心したかのように眠りはじめる。そして時間が来ると、最初に開いたページを閉じて、いそいで出てゆく。

(夏の図書館) 去年から冷房が入った。それで夏の図書館は人気絶頂である。私もそれにあやかっ、だいぶ利用させてもらった。何もすることがなかったら図書館へゆく。小説を読んだり、実験のレポートを書いていたりと、夏の暑い一日が自然と過ぎてゆく。

(秋の図書館) 試験が近づく。朝早くから室内が満席になる。昼ごろ行くともう全然席がない。しかしジッと待っていると、だれかがふと席を立つ。そこへ間髪をいれずに座りこめばもうシメたもの。

(冬の図書館) 冬の図書館もわりあい利用者は多い。外ですることが少ないからかもしれない。それが、だんだん暖かくなり、学年の終りころになると、あたりの雰囲気がかわってゆく。来たるべき春のせい、みんながソワソワとしだす。利用者はだんだん減るようである。